



【校訓】 自立 不屈 進取

令和元年度

12月号

R1. 12. 24発行

ネット・ゲーム依存症の危険

校長 前田 浩二

今、『危機にある子育て環境～子どもの睡眠と低年齢化するゲーム・スマホ依存』(南日本新聞社刊)を読んでいます。その本の中で、「ネット・ゲーム依存症の子どもの脳は麻薬中毒者の脳と同じ状態で、認知能力や感情をコントロールする機能が大幅に低下している。」と書いてあります。とてもショッキングな内容ですが、親として大変参考になりました。子どもをネット・ゲーム依存症にさせないためには、「親の対応として一貫した方針を持ち、子どもの要求にブレないことが肝要である。」とあります。具体的にはスマホやゲームの与え方について次の3つのことが書いてありました。

- ① 愛情不足や手間をかけてやれない穴埋めとして買い与えない
- ② 親の期待通りに勉強等をしているほうびとして与えない
- ③ ショックを受けて落ち込んだ時や受験の失敗などつづいた時、自信を失った時に慰めとして与えない

さらに、③のような時には、しっかり子どもと向かい合い、つらい場面を乗り越える経験をさせることや、ゲームやスマホなど物を与えるより、愛情と関心をたっぷり注ぐことが大切だということが書いてありました。

それでも、スマホやゲームを持たせるのであれば、保護者の責任の下、子どもを守るために「フィルタリング」と「家庭内ルール」は、絶対に必要です。

我が家では、このスマホをめぐり、親子の葛藤がありました。二男が高校へ入学するときにスマホを買い与えました。その時にいくつかの約束をしました。夜は居間にスマホを置くということや親はいつでもスマホを見ることができると、そして、学業が疎かになるようだと取り上げるということでした。しかし、親子で離れて暮らして、目が届かないのをいいことに約束を守りませんでした。勉強はせずにスマホでゲームやSNSばかりして、一緒に住んでいる長女が注意しても止めないということでした。私からも再三忠告はしたのですが、改善が見られなかったため、1年生の夏休みにとうとうスマホを取り上げる決断をしました。部活動の連絡等はSNSで行っていたので、本人も苦労したと思いますが、心を鬼にして取り上げました。しっかり勉強をして学力を付ければ返すと約束したのですが、二男はスマホがなくなったからといって勉強には気持ちが向きませんでした。スマホを返さないまま月日は流れ、2年が経過しました。そして、3年生半ばでやっと返しました。その間、二男にきつとやる気スイッチが入って頑張るのではないかと、はかない期待をしながら、いつ返してもいいように解約はせず、使用しないスマホのために毎月高い料金を払い続けました。さらに、契約期限には他社への乗り換えと機種変更も行いました。腹の立つほど無駄な出費でした。ただ、親として一貫した方針で子どもの要求にブレなかったこと(笑)と、とりあえずネット・ゲーム依存症にならずに済んだのはよかったのかなと思います。

冬休み中もネット・ゲームのしすぎには注意してください。

立神の如く

1年担任・国語担当 南竹 琴美

子どもの頃は身体が弱く、しょっちゅう熱を出し学校を休むことが多かった。呼吸器系統が弱いせいで、一度体調を崩したら全快まで人より時間がかかり、学校を休みがちの小学生だった。熱が出れば布団に横になっている他にない。布団の重みと氷嚢の冷たさを感じながらぼんやりと過ごす屋間の時間。小学生の私にとっては、この時間がたまらなく暇だった。

この無限の時間をどう過ごすか。我が家では、病人は寝ること以外、絶対に許してもらえなかった。テレビなんでもってのほか。そこで私は寝床にこっそり本を持ち込むことにした。もちろん、読書だって見つかるものなら叱られる。寝床に近づく大人達の気配に最大限の注意を払いながら、こそこそとページをめくった。最初のうちは暇潰し。だが、そのうちどっぴりと読書の魔力に取り憑かれてしまった。欠席が3日を超えると、家にあるだいたいの子ども向けの本は読み終えてしまう。活字に飢えた私は、家中にある活字という活字に目を通すようになった。小説はもちろん、新聞、料理のレシピ本、百科事典、育児書、母の部屋に転がっていた週刊誌まで。布団の中に居ながらにして、いろんなことを知ることができる。見たことのない世界へと誘ってもらえる。それが楽しかった。

成長と共に身体も人並みに丈夫になり、寝込むことは少なくなっていったが、小学生の頃の読書との出会いが今も私を支えている。本の楽しさを少しでも伝えることができればと国語の教員になった。授業の中でそれがうまく伝えられているかは分からないが、生徒と読書の話をするときは嬉しいし、本の知識は負けられないと自分なりに努力はしているつもりだ。学校では、国語の授業だけでなく、朝読書の時間や読み聞かせの時間など読書に親しむ時間が設けられている。この素敵な時間の中で、読書の楽しみに触れてほしいと思う。なぜなら、学生時代を過ぎると、そんな時間がなかなか保証されないからだ。

今でも読書は大好きでだが、残念なことに大人になってからは日常に追われ、本とゆっくり向き合う時間が少なくなってしまった。時折ほんの少しだけ現れるスキマ時間は、手元のスマホをいじることでいつの間にか消えていく。布団の中にじっとしてないといけなかったあの頃、母親の目を盗んで本に夢中になっていたあの時間が、今、ひどく懐かしい。

入賞おめでとうございます

○校内持久走大会

団体の部 優勝 2年1組 2位 3年2組 3位 3年1組
個人の部 男子 優勝 3年 篠原稜瑛, 2位 1年 中原翼, 3位 3年 大塚蔵之介
女子 優勝 2年 駒水聖, 2位 2年 牧野娃凜, 3位 2年 森紗香

○第62回県児童生徒作文コンクール 地区審査 特選 1年 鮫島愛奈

○第62回県児童生徒作文コンクール 入選 1年 鮫島愛奈

○第63回JA共済小・中学生書道コンクール 条幅の部 佳作 1年 松田一伸

○第4回南さつま「いろは」まごころ短歌大会 佳作 2年 吉永千紗

○第14回系洲会九州地区交流第34回日本空手道系洲会鹿児島県空手道選手権大会 個人形 中学男子の部 優勝 2年 池上 元

還暦同窓会の皆様より寄付をいただきました [11月26日]

還暦同窓会の皆様から寄付をいただきました。以前PTA会長をされていた林吾郎さんが届けてくださいました。先日は、古希同窓会の皆様からも寄付をいただきましたが、このようにいつも母校のことを思ってくださっている卒業生の皆様がいらっしゃることをとても心強く感じます。子どもたちのために、ありがたく使わせていただきます。

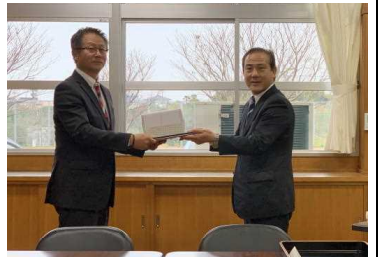
令和元年度 優良PTA文部科学大臣表彰 [11月15日]

昨年度の「日本PTA全国協議会会長表彰(団体)」に続き、2年連続の表彰となりました。青パト見守り活動への協力、手作り鯉びんた料理による新入教職員歓迎会等、地域とともにある26年間のPTA活動が評価されました。歴代PTA会員、地域の皆様へ感謝いたします。



人権教育及び租税教育推進への感謝状

租税教育推進校として、特に税についての作文への積極的取組に対し、知覧税務署長賞をいただきました。また、人権作文コンテストへ毎年多数応募し、人権意識の高揚に貢献したとして、鹿児島地方法務局知覧支局長並びに知覧人権擁護委員協議会から感謝状が贈られました。



知覧税務署長賞授与

校内持久走大会 [12月10日] 力の限り走り抜きました!



正月の準備～おやじの会～ [12月22日]

おやじの会の皆様とPTAOBの大園和彦さんが門松用の竹を準備してくださいました。山から切り出し、斜めに切る作業までしてくださいました。この竹を使って、冬休みに部活動生と先生たちで門松を作ります。



【1月の主な教育活動予定】

3日(金) 立神相撲	18日(土) 春の祭典(2-1出場)
8日(水) 始業式 給食開始	19日(日) 新春かつおジョギング大会
9日(木) 3年実力テスト 読み聞かせ	21日(火) 立神小6年生入学説明会
11日(土) 土曜授業 チャレンジタイム	27日(月) 朝の声かけ(2-1)
14日(火) PTA理事会	29日(水) 枕崎高校発表会(2年生)
地区学校保健・安全研究大会	SC(午前)
15日(水) 鹿児島学習定着度調査(~16)	31日(金) 立志の集い(2年生)
青パトの日 SC(午後)	朝の声かけ(2-1)